

平成 27 年度 (児童養護施設) 事業報告

1. 総括

27年度においては、(1)「四恩たまみず園(小規模棟:定員55名)」を開設し、児童養護施設は「四恩学園(定員95名)」との2園の運営を開始しました。(2)四恩学園における設備の改善に取り組み、入所児童の環境の整備を図り、(3)第三者評価受審により受けた指摘項目に基づき自立支援計画の策定及び見直しの充実を図り、(4)引き続き児童の学力の向上と自立支援を強化してきました。

(1)については、社会的養護における小規模化・家庭養育の推進という大きな流れを実現すべく、小規模棟を中心とした児童養護施設「四恩たまみず園」(定員55名)を開設し、2箇所の児童養護施設を運営してきました。四恩たまみず園は小規模棟としての利点を生かし、四恩学園は大舎制の利点を生かし、両園で補完的な運営を取り組んできました。

(2)については、新設の「四恩たまみず園」に対して、「四恩学園」の施設・設備が老朽化しており、①屋上の防水工事をはじめとして②居室のベッドの取り換え、③女子部における入浴室の設置、④男子Cグループ(小規模グループケア)の居室等の改修を行い、児童の居室等の環境の整備に努めてまいりました。

(3)については、26年度に受信した「第三者評価」により指摘を受けた事項の「自立支援計画の見直しや子どもの権利擁護への取り組み、児童個々に応じた支援の質の向上」について、専門職員と処遇職員とが共同して自立支援計画の策定と見直しに努め、児童個人に適した進路について数年計画で取り組むようにするため進路の節目に当たる児童について検討を行う「進路応援会議」を発足して取り組みを強化したところです。

(4)については、個々の学力や希個性を尊重しながら通塾の推進、学習ボランティアの活用を行い進路の保障に努めた。その結果として、高校卒業生については2名が大学に進学し、6名が学校の推薦等を得て就職を果たしました。また、中学校卒業生については8名が高校に進学を果たした。

2. 目標の振り返り

1. 学力の向上を図る

(1) 学習ボランティアによる個別学習

27年度は、13名(H28.3.31現在)の学習ボランティアの方々の支援を得て、小学生・中学生の基礎学力の向上を図ってきました。学習習慣の獲得につながっているが、児童個々の学力や個性等について、施設職員と学習ボランティアの細かな連携・情報の共有が必要である。

(2) 通塾による高校進学に向けた能力の向上

学習ボランティアの支援により学習習慣を身につけることに加えて、基礎学力の向上を図り、

希望の高校進学が果たせるよう支援を進めている。

(3) 学力遅滞・低学力児及び発達障害児への対応

天王寺小学校の仲良し学級、天王寺中学校の支援学級を活用し、生活意欲や登校意欲を持たせるとともに児童個々の発達特性を理解していただき、子どもが落ち着いて学習できるように連携を図っている。

(4) 幼児の発達への課題に取り組む

絵本の読み聞かせボランティアの活用により、絵本を読んでもらうことの楽しさ、聞く態度が着実に身についている。読み聞かせボランティア（綿の花/月2回・ゴマだんご/隔月・地球お話し村/隔月）

また、幼児の身体の発達に寄与するものとして器械体操などを行う体操教室を実施している。

2. 子どもの命と人権を守り育む

(1) セカンドステップ・コモンセンスペアレンティング（CSP）の継続実践と応用

CSPについては職員・児童ともプログラムに基づく実践が恒常的に行われ、感情のコントロールなど暴力・暴言を用いない養育のスキルが定着しつつある。しかしながら、児童の発達の具合によりプログラムがそぐわない事態が生じるため、子どもへの適用については課題を残している。

(2) 被措置児童等虐待を防止するための取り組み

各グループの自治会での勉強会や個々の悩みを話し合うなど暴力によらない対応について話し合った。また、情動が混乱している児童に対して心理士による高齢児童の意見の汲み取りを行い、情動の安定化に努めた。

(3) 性教育の実施

気持ちホット委員会を中心に定期的に取り組むとともに、年齢など発達に応じて性教育の教材を整備してきた。

3. 安心安全な環境づくり

(1) 生活単位・施設の小規模化及び家庭的養育の推進

①地域小規模児童養護施設

洗心館：（男子 中高生3名 小学生3名）

暴力や威圧をなくすために生活の中で徹底した話し合いや、CSPを基盤にルール作りを積み重ねているが、思春期を迎えた高校生の感情のコントロールについて課題が生じている。

河堀荘：（中学生女子1名 小学生女子3名 小学生男子2名）

平成25年4月にスタートし3年が経過した。子ども間で暴力問題が発生すれば、その日のうちに全員で完結に向けて話し合い、どんな些細なことでも見逃さない強い気持ちで取り組んでいる。

②四恩学園Cグループ（施設内小規模グループケア：男子 中高校生5名）

27年度から中高校生を対象に自立支援を主要な観点として小規模グループケアを実施

している。そのため、年度当初に居室等設備の改修工事を実施した。

四恩学園：定員 95名

③小規模棟四恩たまみず園の運営（定員55名）

小規模グループホーム「るり光ホーム（女子 6名）」「黄光ホーム（男子 6名）」
6人+5人ユニット「青光ホーム（男子 6名）赤光ホーム（男子 5名）」、幼児8人×
2ユニット2カ所（32名）を運営。

（2）安全安心な環境づくりと問題発生時の対応

①生活空間の設備整備

老朽化してきている四恩学園の施設・設備の改修を行った。

女子部：入浴設備の設置、居室寝具（ベッド）の新規交換

屋上の防水工事並びに物干し場改修、天井改修

男子部・女子部：居室部分の壁塗装

②災害・事故予防の訓練等

防火防災マニュアル・感染症マニュアル・事故予防マニュアルの整備

（3）食育の取り組み

小規模化に伴い、職員の調理技術の向上のため調理実習の実施。

小規模グループホームへの調理員の出前調理の実演を行い、直接子どもからの感想を聴取した。

4. 施設・職員の組織再編強化

（1）階層別研修の実施（下記の階層に分けて実施）

管理職の組織のリーダーとしての運営管理職員研修

中堅のリーダーシップを育てる研修

サブリーダー研修

新任職員研修

（2）専門職（心理士・家庭支援専門相談員・里親支援専門相談員）の充実

①四恩たまみず園が開設されたことで、心理士、家庭支援専門相談員を各1名増員し、子どもの心のケアの充実、家庭引き取りに向けた取り組みの充実を図るとともに自立支援計画の充実化を図った。

②四恩たまみず園に、心理治療用プレイルーム2カ所を整備するとともに多目的室でのプレイセラピーの活用も図った。

5. 今後の課題

小規模化のさらなる推進に向けた、土地・施設・設備の整備とともに、小規模施設に対応できる職員の能力の向上などの人材確保と育成が急務である。

児童については、思春期の課題を抱えた中高校生などの高年齢児童に関する対応技術・能力を高めるとともに、児童の自立及び自立後のアフターケアの充実が課題である。